

日本の戯曲研修セミナー in 福岡2022

木下順二を読む！ 劇のことばのつくりかた

後期
対面

11月6日(日)、13日(日)、20日(日)、27日(日)

福田善之 Selection — 読み合わせ会

「声に出して読むべき木下順二戯曲」を、福岡を拠点とする演出家たちの進行で参加者と共に読みます。木下順二を師と仰ぐ福田善之さんが作品を選び、その仕事ぶりなどを進行役が聞き取り、各自の視点で読み解きます。

日時 | ① 11/6 (日) 13:30 ~ 17:30
② 11/13 (日) 13:30 ~ 17:30
③ 11/20 (日) 13:30 ~ 17:30

会場 | 福岡市民会館 練習室

進行役 | 五味伸之(空間再生事業 劇団GIGA)、
山口大器(劇団言魂)、若宮ハル(若宮計画)

コーディネーター | 福田善之

参加料 | 1,000円(1日)、2,000円(3日通し)、協会員500円(1日)

お申込み方法 | 申し込みフォーム

<https://forms.gle/jazWCT7N2xtT1R7r9>

もしくはメール info.jda.fukuoka@gmail.com で
参加日、お名前、所属、連絡先(メール、電話)、参加動機、
を明記の上ご応募ください。



レクチャー・リーディング上演・シンポジウム

日時 | 11/27 (日) 14:00 ~ 19:00

会場 | 福岡市民会館 練習室

参加料 | 1,500円、協会員1,000円

お申込み方法 | 申し込みフォーム

<https://forms.gle/uPg5G5YaPxyzL5JK9>

もしくはメール info.jda.fukuoka@gmail.com で
参加プログラム、お名前、所属、連絡先(メール、電話)、
参加動機、を明記の上ご応募ください。



14:00 ~ 15:30 レクチャー「シンゲキ — 木下順二論」

演劇評論家・西堂行人さんが語る、新劇とその中の木下順二の位置づけ、その後について。木下順二の全体像と魅力に迫るレクチャーです。

■ 講師：西堂行人

16:00 ~ リーディング上演

演劇の言葉は、俳優の身体を通して観客の前で立ち上がります。日本を代表する劇作家のことばに、俳優と観客、相互の身体性をもちいて触れていきましょう。

■ 演出：石田聖也 ■ 出演：峰尾かおり ほか

シンポジウム「劇のことばのつくりかた 木下順二編」

リーディング上演後に、演出家、評論家、研究者とともに、〈劇のことばのつくりかた〉をテーマに、劇作家木下順二に迫ります。

■ 出演：石田聖也、須川渡、西堂行人

プロフィール

前期 講師



鴨山仁 (うやまひとし)

1953年、奈良県生まれ。慶応義塾大学フランス文学科卒業。舞台芸術学院を経て文学座附属研究所に入所、劇団員に。初演出は1982年、文学座アトリエ公演『ブラハ1975』。以来精力的な演出活動が続いている。83年から1年半、文化庁派遣芸術家在外研修員としてパリに滞在。2007年6月~2010年8月、新国立劇場の第四代演劇芸術監督を務める。89年芸術選奨文部大臣新人賞、99年第2回毎日芸術賞千田是也賞、01年紀伊國屋演劇賞個人賞、04、10、16年読売演劇大賞・最優秀演出家賞、10年芸術選奨文部科学大臣賞、20年に紫綬褒章、21年に毎日芸術賞を受賞。現在、文学座演出部所属。

後期 読み合わせ会コーディネーター



福田善之 (ふくだよしゆき)

1931年東京生まれ。東京大学文学部仏文科卒業。劇作家木下順二・演出家岡倉士郎に師事。作品『長い墓標の列』('57)、『遠くまで行くんた』('61)、『真田風雲録』('62)、『オッペケペ』('62)など。『袴垂れはどこだ』('63)で岸田國士戯曲賞に選出されるが辞退する。大河ドラマ『風と雲と虹と』を始め映画・テレビ・ラジオドラマの執筆も多数。また大河ドラマ、ウルトラマンシリーズへの出演も。『壁の中の妖精』ほかで、紀伊國屋演劇賞・個人賞('94)を、『私の下町—母の写真』で読売文学賞('94)、読売演劇大賞優秀演出家賞('99)、斎田喬戯曲賞('00)を受賞。第六代日本演出者協会理事長(2003年~2006年)。現、評議員。

後期 レクチャー講師



西堂行人 (にしどうこうじん)

演劇評論家。明治学院大学文学部芸術学科教授。1954年10月、東京生まれ。早稲田大学文学部(演劇専修)卒。同大学院中退。1978年から劇評活動を開始。60年代以降の現代演劇を中心に、アンガラ・小劇場ムーブメントを理論化する。80年代末から世界演劇にも視野を広げ、韓国演劇及びドイツの劇作家ハイナー・ミュラーの研究。90年代以降は大学で教育に関わる。「世界演劇講座」を2006年から開講。近大会館、伊丹アイホール、今年度から東りいたみホールで開講する。主な著書に、『演劇思想の冒険』『ハイナー・ミュラーと世界演劇』『劇的クロニクル』『日本演劇思想史講義』ほか。最新著『ゆっくりの美学 太田省吾の劇宇宙』(作品社、2022)で第27回 AICT演劇評論賞受賞。

後期 リーディング演出



石田聖也 (いしだせいや)

2013年、演劇ユニットそめごころを旗揚げ。以後、ほとんどの作品で演出を務める。自身の戯曲の上演、既成戯曲の立ち上げを中心に取り組む。近年では、市民参加型演劇・仮想バスツアー「早良探訪記」の創作や、ヘッドフォンを装着して美術館を回遊する体験型パフォーマンスツアー、野外でのサウンド・インスタレーションなどの創作に携わる。最新作は、女優の魂の展示会を舞台にした演劇作品「魂の女優ごっこ展 — 永遠の役を生きる、わたしたち」。

後期 シンポジウム出演



須川渡 (すがわわたる)

福岡学院大学人文学部准教授。博士(文学)。専門は演劇学。東北地方の農村を中心とした戦後日本の地域演劇について調査を行なっている。近年は地域演劇だけでなく、パフォーマンスの分析やオンライン演劇の実践など、多岐にわたる研究を行う。著書に『戦後日本のコミュニティ・シアター 特別でない私たち』の演劇(春風社)、共著に『漂流の演劇 維新派のパスベクティブ』(大阪大学出版会)など。

《日本の戯曲研修セミナーとは》

日本演出者協会が、演出家が戯曲を読み解き、演出の方法を探るために企画したもので、日本近代戯曲の総括および現代戯曲の研究に野心的に取り組む勉強会でもあります。福岡では2018~2020年の3年間に、6、70年代のアンガラ作家(寺山修司、唐十郎、別役実)とその戯曲の研修を行ってきました。これまでの研修を通して、アンガラ世代の作家たちの活動の起点の一つ前の時代としての新劇の存在が大きいことを知り、新劇に焦点をあて、木下順二を取り上げます。

《日本演出者協会とは》

日本演出者協会は、1960年に設立された日本における唯一の専門的舞台演出家の協会です。《社会的・経済的・芸術的地位の確立、芸術的能力の向上のための研究・芸術上の相互援助をはかることを通じて日本演劇の発展に資する》ことなどを目的として設立されました。〈演出家〉ではなく〈演出者〉とした理由は、初代理事長の村山知義の、「演出は単なる職能であり、またプロもアマチュアも参加できる」という理念からです。 <https://www.jda.jp/>